



季節を知ったら
暮らしが楽しくなった

〜第二十七号〜

啓蟄 けいちつ

三月六日

あおさ

「あおさ」と親しく呼ばれる海藻は、ヒトエグサといます。今年海水の水温が低く、ヒトエグサの生長が遅いのですが、それでも矢湾や五力所湾の入江には養殖する海苔ソダが並び、緑色の絨毯じゅうたんが広がっています。みずみずしい緑色の絨毯は、伊勢志摩地方の春には欠かせない風物詩となっています。

「あおさ」の生産は三重県がここ十年ほど全国の六〇七割程度を占め、全国一位を誇ります。養殖範囲も木曾三川や櫛田川、宮川が流れ込む伊勢湾とリアス式海岸の志摩半島と広く、全国的にも珍しいといえます。

じつは三重県産の「あおさ」は、天然種苗といって、初秋の頃、浅海や河口部など種の付きやすい場所に採苗用の海苔網を設置し、ヒトエグサの胞子体から放出された遊走子ゆうそうしが海面に浮上してくるのを海苔網に付着させるのです。つまり、三重県沿岸にはヒトエグサの種が自然に浮かんでいて、これを海苔網に付着させて、種付けを行っているのです。

そうした養殖場が、伊勢湾の松阪から、志摩半島、熊野灘の紀北町まで広がっているのです。これらの海域では、ヒトエグサが冬から早春にかけて五〇十五センチにすくすくと育ち、採取されます。その海域や、同じ海域でも沖合か河口かなど採れた場所によって、浅い緑から深い緑まで異なる色合いであるのが特徴です。

「あおさ」は、陸上の植物と同じように光合成を行います。海中の二酸化炭素を吸収し、酸素を放出しているのです。自然と人間の生活が共存する海を「里海さとうみ」と呼びますが、海に敷かれた「あおさ」の絨毯は、三重の里海が育んでいる風景でもあるのです。

文 千種清美



おかげの里便り

おかげ横丁

○ 五十鈴川桜まつり

新緑の朝熊山を背景に、対岸の桜を眺めながら、お花見料理で華やかに、夜桜のライトアップでしっとりとお花見していただきます。

五十鈴川の桜と一緒に、うらかな春のひとときをお過ごし下さい。

と き / 4月上旬 (桜の見頃の時期に合わせて) 10:00~17:00

ところ / 五十鈴川河川敷周辺

● 花見屋台

田楽や団子などの屋台が並びます。赤毛せんの敷かれた縁台に腰をおろし、のんびりとお過ごし下さい。

● 夜桜のライトアップ

日没より、五十鈴川新橋周辺の夜桜をライトアップします。風のない日は、五十鈴川の水面に映る美しい桜もお楽しみください。

と き / 満開の頃 19:00~21:00

※雨天時は中止させていただく場合もあります。予めお問い合わせの上、お越しください。

五十鈴塾

○ 伊勢参宮名所図会を読む⑭

『伊勢参宮名所図会』とは、寛政9年(1797)に京都・大阪の版元から刊行された伊勢参宮の案内書で、数ある案内記や道中記の中で最も詳しい決定版ともいえるものです。当時は案内書などによって伊勢の情報が全国に伝えられ、豊富な予備知識を蓄えて伊勢参宮に旅立ったようです。岡野先生のやさしいご指導で、江戸時代の「お伊勢参り」を追体験しつつ、楽しみながら読んでいきましょう。

14回目を迎える今回は、鸚鵡石から始まり、伊雑宮・楠部峠・朝熊峠・金剛證寺・小朝熊社といった神宮周辺の名所をご案内します。くずし字や変体かなが読めるようになりたい方、大歓迎!!

と き / 3月12日(月) 13:30~15:00

講 師 / 岡野 友彦 (皇学館大学文学部長)

参加費 / 一般1,300円 会員800円

集 合 / 五十鈴塾右王舎

※お問い合わせ・お申込み 0596-20-8251

五十鈴茶屋

○ 節気菓子

はるがすみ
春霞

羊羹と浮島で、草木が芽吹く山々をかたどり、陽炎もかすかに立ち昇る、春霞の景色を表しました。

さわらびじょうよ
早蕨薯蕷

春の色そのままに、薯蕷生地を淡い緑で染めました。うらかなに続く、里の弥生を思わせるかのようです。

さほひめ
佐保姫

粒餡を雪平と羊羹で包み込み、この時季の気分を喜びとともに、みやびの心で表現しました。